## 記念講演
# 「東京2020オリンピック・パラリンピック招致活動を振り返る」

（公財）日本オリンピック委員会　強化第二部副部長
**渡部　徹**（昭和56卒）

2020東京五輪招致にあたって、マーケティングと国内支持率向上の任を担った。オリンピック・パラリンピック招致委員会の一員として前回大会2016リオ五輪の招致活動の経験があり、招致パートナー（スポンサー）をうまく取り込むことができた。

目指したことは①徹底した経費の削減②カウントダウンイベントの意識③SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の積極的な活用④メディアに取り上げてもらうための工夫――に加え、パラリンピアンの活用などで、PR活動の一環として東京都の実施するイベントに積極的に関わることも心掛けた。

最初に取り組んだことは2020東京五輪の招致ロゴ選定で、ロゴのデザインは2011年11月にJOC日本オリンピック委員会が公募した作品の中から、圧倒的なパワーを感じさせた島峰藍（しまみね・あい）さん（当時・女子美術大3年）の作品に決定し制作させた。島峰さんの作品は日本を象徴する「桜」がモチーフで、色とりどりの花が集まった「桜のリース」をかたどっており、リースには「再び戻る」という意味もあり、日本が1964年（昭和39年）以来のオリンピック・パラリンピックを開催して、再びこの国に勇気と活気を取り戻したいとの願いが強く込められたものであった。

東日本大震災の被災地、宮城県気仙沼市にも足を運び、「実はこういう活動を行っていますが、どうでしょうか」と問いかけたところ、「こういう時だからこそ、どんどんやってほしい」と快諾していただき、自分たちの活動が間違っていないと意を強くすることができた。

国内支持率の向上については、IOCが初めて調査結果を公表した12年5月に47％だったが、次第に上向き58％（12年7月）、第6回最終調査（13年3月）で77％まで達し、「7割あればまず大丈夫」と、この時点で東京に2020五輪が来ることを確信することができた。正式に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定したのは13年9月のIOC総会だった。

最終的なスポンサー企業は21社に上り、前回リオ大会の招致数（17社）を上回ることができた。

# 3年ぶりに支部長会議を開催

6月10日の総会前に、支部長会議を開催した。県外4支部を含め19支部の代表と本部役員ら34人が参加し、本部と支部の情報交換や支部活動の課題などについて協議した＝写真。

本部からは、前回要望のあった支部旗作成補助金の要綱を定めたことや、同窓会費の口座振替の勧誘、同窓会だよりへの情報提供のお願いなどがあった。支部からは、若手の参加を促すため、総会・懇親会に学生を無料で招待したり、就職相談会を開催している事例や、新入生歓迎会を兼ねて総会を開催している事例などが紹介された。

転勤者情報を地域支部にも提供してほしいとの要望があり、秋田県警察支部からは、各署の同窓生に地域支部に顔を出すよう伝える、北都銀行支部からは支店長等に声を掛けてはどうかと、今後の交流拡大に期待できる提案があった。

近畿支部などからは、「支部活性化のためにも是非甲子園に出てほしい」と母校への強い要望（声援）があった。

今後も3年ごとに支部長会議を開催し、同窓会活動の活性化のため、各支部と本部の意見交換、情報交換の場として活用していきたい。

（企画委員長・佐藤悦紹）

# 名簿第41号を発刊!!

同窓諸氏のご協力、ご協賛のおかげで、創立145周年記念同窓会員名簿第41号の発刊にこぎつけることができました。厚く御礼申し上げます。

年次名簿委員と名簿委員会の努力にもかかわらず、編集上のミスから現在までのところ、複数の大きな間違いが判明いたしました。該当箇所の皆様及びご購入いただきました皆様に深くお詫び申し上げます。

同窓会員名簿第41号の発送準備に追われる名簿委員ら（8月26日、羽城館で）

委員会では訂正シールを用意し、名簿をお持ちの皆様にお送りいたしました。

他にも誤字、脱字等が判明する場合もあるかとは思いますが、どうか努力に免じてご容赦の程、お願いいたします。

なお、若干の残部がございますので、購入を希望される方は、同窓会事務局までお問い合わせください。

（名簿委員長・越中谷孝一）